
天才と依存と召喚獣

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天才と依存と召喚獣

【Nコード】

N8359K

【作者名】

空

【あらすじ】

Fクラスに転入生が来た！！！

「初めまして皆さん蒼空海です」

この一言から始まった新しい物語の開幕です

「あっちなみに霧島翔子と坂井雄二とは幼馴染です」

「それと翔姉には『手』ださないでね」

主人公設定（前書き）

六月十二日改定

主人公設定

蒼空海 （そうくう かい）

性別 男

年齢 15

身長 秀吉より少し下

体重 軽いよ・・・女の子よりw w

髪の色・長さ 蒼 肩から5～8cm長い位

瞳の色 蒼

容姿 上の上 美少女並の可愛さ

家系 母・父・姉

頭脳 すべての教科の点数は1万点超えw w

備考

- ・ 性格は楽しい事なら全力で尽くすタイプ後泣き虫と弱天然要素がある
- ・ 昔の事件で翔子に依存してる
- ・ あくまで翔子一筋だがフラグがどんどん立っていく
- ・ 雄二、翔子とは幼馴染

- ・家は翔子の隣
- ・株をやっている額十億超えてるとか超えてないとか・・・
- ・身体能力もハンパないくらい高い
- ・学園長とは知り合い
- ・男の娘

「試召戦争編」第一問く依存してなにが悪いく（前書き）

厚過ぎちゃってますね・・・すみません

「試召戦争編」第一問く依存してなにが悪い」

『ったく長い坂だなまったく』

俺は蒼空海、今日から文月学園に編入するんだ……てか「そうくう」って苗字どう思う？普通に

「ああぞら」でいいと思うんだが……ん？あらずじと口調が全然違う？ああ、あれは翔子の前

でしかない依存モードだ……し、仕方無いだろ翔子の前だとあなってしまうんだよ……

『お！やつと着いたぜ』

「おい！其処のお前遅刻だぞ！！」

ん？あれは先生か？丁度良い

『すみません、今日からこの学園に編入する蒼空海です、少し迷ってしまっ』

まあ嘘だけどww道なんか全部知り尽くしてるしww

「ん？お前が編入生か、俺はここの教師の西村宗一だ」

やっぱりてか体格ゴツいな、絶対トライアスロンとかしてて鉄人とか呼ばれてそうだな

『てつじ……西村先生それで俺のクラスは？』

やべっ！つい言ってしまいそうだった……気づいてないよ……な？

「ふむ、まあいいだろう。あとお前のクラスはFだ」

まあ自分からFに行きたいって頼んだしなwwえ？どうしてだつて？だって楽しそうじゃんww
てか気づいてるし……スイマセン

『あ、はいそれでFクラスは何処ですか？』

とまあこんな感じのやり取りの後今はFクラスのドア？の前に居るんだけど……さすがにドアなのか心配になってきたなんかボロ過ぎて……もう板で良いんじゃないやねって思うんだが

「では蒼空君はここで待ってて、呼んだら入って来てください」

『あ、はい』

今の人は担任の……誰だっけ？まいいや

「皆さんおはようございます。いきなりですが今日のHRは編入生の紹介をします。では蒼空君入って来てください」

おお早速か、じゃ行ってみますか

「お、おいあの娘可愛くねえか？」

「た、確かにでもなんで男子の制服着てんのかな？」

「いや其処が良いんじゃないのか」

「てか坂本雄二と幼馴染だと!？」

「「「「「「「「「「殺せエエエエエエエエエエエエエエえ
え」「」「」「」「」

「お、おいお前らどうしたんだ？」

「なんでお前があんな可愛い娘の幼馴染なんだよ!!」

「は？お、お前ら勘違いしてるぞ、海は男だ!!」

「え？今男つて言った？男？オトコ？」

「落ちて着けあの子は男でも男の娘だ!!」

「「「「「「「「「「おおおおおおおおおおおおお
お」「」「」「」「」

そ、揃いも揃って皆『僕』の事を女、女・・・
うっう・・・

『ヒグッ・・・ウツ、グズッ・・・』

「やべえ!!海待て泣くんじゃない!!」

もう無理・・・

『うああああああああああん』

「だから泣くなつてば！！し、仕方ない翔子を呼ぶか」

だつてだつて皆が皆が！！！！

「翔子か？今からＦクラスに来てくれ説明は後だ！！」

「ああ！男の子が泣いちゃダメでしょ？」

「そうです。だから泣き止んでください」

『うあああああああああああああああ』

ガラガラガラ　カツカツカツ

「雄二、何があつたの？」

「翔子！説明は後ですからまずは海を泣き止ましてくれ」

「海？海つてまさか・・・」

『うわあああああああああああああああああああああ
あ』

もうヤダよ！なんで女つて言うのぉ？

「海！！私だよ、ほら翔子だよ？」

ぎゅっ

「よしよし、ほら落ち着いて」

『うつ、ひぐ・・・ぐずっ・・・翔姉？』

翔子に依存してんだよ・・・」

「試召戦争編」第一問く依存してなにが悪いく（後書き）

すみません文才が無さ過ぎますねww

「試召戦争編」第二問くやだカオスって怖いく（前書き）

パソコンから煙が出て壊れたWWWやベエWWW

「試召戦争編」第二問くやだカオスって怖い」

「ぶつww海、初っ端からあれはないだろwwくつ、ぶつww」

『・・・・・・・・死ね』

グシャ バキバキ パーーーーーン

「のおおおおおおおおおおお」

「まったく煩い男だ。ああすまん、さっきの醜態はまあ気にしないでくれてか気にするな。てか人が気にしてることをこの男は・・・・・・・・」

『で？今はどんな状況なんだ？』

「さっきこの文月学園の特徴とも言える試験召喚獣の話聞いたんだがこのFクラスはなんでも他クラスと試召戦争をしてるらしい」

「ああ、いま俺のクラスはBクラスと戦っている。」

Bクラスか・・・・・・・・ふむ。戦力的にはギリギリという感じが

『なら、俺も出るのか？』

「いや、お前はまだ出さない。海はAクラスの時に出てもらう」

へへAクラスかまあ俺の玩具には最適かな

『Aクラスで強いやつは誰だ？』

「そうだな、木下姉、工藤、佐藤、久保そんでもって翔子か」

『翔子とかまじパネエｗｗてか雄二ｗｗテラキモスｗｗ』

くふふ玩具！玩具！楽しみだな

「あ、もしもし翔子か？海がお前の事嫌いって」

！？！？！？！？！？ 何言っちゃてんのこいつ！ヤバイヤバイヤバイ

「ほいつ、翔子が海に代われだつてさ」

えええええええええ、どどどどど、どうしたら俺が助かる考えるんだ、いいかいくぞ

『も、もしもしゆ』

か、噛んじまったやべえめっちゃ恥ずかしい／＼／

「ぶはっ」 ポタポタポタ

「きゃあああ代表！？どどど、どうしたんですか！！」

「・・・萌え」

「代表おおおおおおおおおお」

なんだ？あつちで何が起こった？もしかして俺のせいなのか？え、

「何で心が読めるの!??てか「はやく」の字が違うよ!?!?」

あつれえ？おかしいな。なんで俺はひこずられてるのかな？
 ……人生諦めも必要か

Aクラス

「あ、代表。何処に行つて……つてええええええええええ！
?!?!?!?」

「どうしたの優子？……ええええええええええ！?!？」

誰か助けて

何でAクラスに來ないといけないんだ……
てか女子二人が驚いてるじゃないか

「だ、代表？誘拐は犯罪ですよ？」

「違う……雄二に頼まれただけ」

「つまりお守りですか？」

「うん・・・」

『ちよつと待てやゴルア!!!!人を赤ちゃん扱いすんなよ!!!!』

「海黙つてて」

「はい、すみません」

仕方ないじゃん！翔姉が怒ったら何されるか堪ったもんじゃないっ
つつっ！！

てか、この人達どこかで見たことあるような？

『っーか秀吉に似てるな・・・冗談抜きで』

「ん？ああ、私は秀吉の双子の姉よ」

『どーりで似てる訳だ』

アイツ双子だったんだな・・・
てか双子なのに頭脳の差がww

『なあ、あんたは去年水泳大会に出てなかったか？』

「私？出てたけど・・・それがどうしたの？」

翔姉の前で言っついていいのか？
いやここで言わないと男の恥だな・・・

『いや、唯可愛い子だな』と思って見てたあああああああああ
あ』

痛い痛い！！！！ちよっ、関節が変な方向に曲がってるうっうっうっ！！！！

やっぱり言わなけりゃよかったっつつっ！！！！

「へーありがと」お礼に保健体育の実践をしてあげよっか？」

『おお、それは勿論オバマツツツツ！！！！』

「……………浮気は許さない」

『わかった、わかったからああああ。放してその手を放してえええええ』

「……………わかった」

た、助かった……………
一瞬お花畑がみえた……………

「こほん、じゃあ改めて私は木下優子。さっき言ったけど秀吉の双子の姉よ」

「僕は工藤愛子。水泳部所属、スリーサイズは上から」

「聞いちゃダメ」

『あばばばば、み、耳があああああ』

もうヤダ……………

さつきからバイオレンスな事しか起きてない気がするww

『俺は蒼空海。Fクラス所属で今日転校してきた、よろしく』
ニッ

「……………可愛い」

『えつと愛子さん？なんか変なオーラがでてますよ？』

てか今思っただけどいつの間にか翔子の事翔姉って呼んでる？
もしかしてあのモードが始まる！?!?!?

『やっぱ翔姉じゃなくて翔子どうしょ?!?!?アレが始まるかも』

「始まつてもいいよ?」

『いやいやいや!?!?!?翔姉じゃない翔子が良くても俺がダメなの
!』

「アレって何?」

「……見てみたい?」

「「見てみたい」」

やっぱこれは変なフラグが立った気がする・・・
てか立ったなこりゃ

「海、おいで」

『うゆ……ヤダ』

「海、もう一回言うよ。おいで」

・・・どうなっても知らないからな

『にゃう……翔姉』

「試合戦争編」第三問〜FVS B・・・だが断るWW〜（後書き）

オチが無いっつつっ！！！

お知らせ

ここで特に重大でもないお知らせです

この作品は”凍結”させようと思います。

今更なんですけど自分に何作も書ける訳ないので（笑）

と、言うわけで誰も見てないとは思いますが一応・・・

今まで見てくれた方ありがとうございました。

今はISの小説を中心に書いていこうと思います

こんな駄作が見たいという方はコメントなどをしてくれたら書くかも？

まあとにかく、今までありがとうございました。

また、いつかお会い？しましょう

では、さようなら

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8359k/>

天才と依存と召喚獣

2011年10月7日00時32分発行